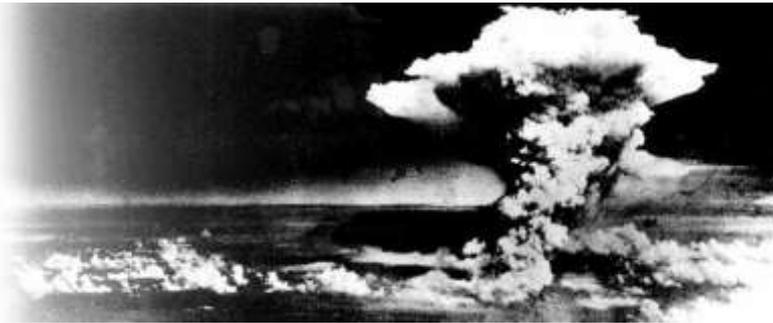


なぜヒロシマに原爆が落とされたのか？

2024 ヒロシマ平和研修②

第二次世界大戦中、アメリカは敵国であるナチス・ドイツより先に核兵器を保有するため、「マンハッタン計画」のもと原子爆弾の開発を進めていきました。1945年7月、核実験に成功したアメリカは日本に向けた原爆投下へと突き進むこととなります。日本各地を空襲する中で、「パンプキン爆弾による模擬原爆の投下訓練」が行われ、その後の8月6日、ヒロシマに原爆が投下されました。

当初、原爆投下予定地は横浜や京都をはじめとした17箇所でしたが、最終的に「広島」「小倉」「長崎」「新潟」の4都市に絞られました。原爆投下の選定基準は①直径3マイル(4.8km)以上の広さを持つ都市②高度な戦略価値を持つ都市③比較的、空爆による被害を免れた都市の3点です。原爆投下は「原爆の破壊力が実証できる都市」など、人的被害を含めた核実験の研究という側面もあったとされます。



1945年末までに…
約14万人の方が
亡くなりました。

放射能の影響について

原爆は、3000℃から4000℃の熱線と爆風により、多くの市民の命を瞬時に奪い去りました。また、恐ろしいのは「致死量を超えるレベルの放射能」がまき散らされたことです。爆心地から500m圏内では、即日ないし1ヶ月の内に大半の方が放射能によって亡くなりました。大きなケガを免れた被爆者の方も、高濃度の放射線によって徐々に体を蝕まれました。「黒い雨」を浴びて多量の放射能に侵されるなどして、白血病などにより亡くなられた方、そして胎内被爆により障がいをもって産まれた赤ちゃんなど、被爆者本人だけでなく多世代にわたって影響を及ぼすこととなりました。



黒い雨を浴びた
当時の衣服

原爆の子の像

被爆から10年後、白血病で亡くなった「佐々木禎子さん」という方がいます。禎子さんは2歳の時に被爆しましたが、外傷もなく元気に成長しました。しかし、9年後に突然病の兆しがあらわれ、翌年「白血病」と診断され入院することとなりました。病からの回復を願って、薬の包み紙などで鶴をおり続けましたが、8ヶ月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。禎子さんの死をきっかけに、原爆で亡くなったすべての子どもの霊を慰めるために「原爆の子の像」建立運動が全国に広まり、1958年に完成しました。

